

公益社団法人日本クラフトデザイン協会

事業評価委員会 議事録（親と子のふれあい交流活動）

日 時：平成31年3月10日（日） 11:00～13:00

※第2回定例理事会の議題として審議された

場 所：日本クラフトデザイン協会事務局 （東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-5-15-408）

出席者：（理事）磯谷晴弘 菅野靖 岡英司 諏訪薫 内藤広宣 松田光二

吉谷美世子 采翠真澄

（監事）露木清勝

●実施内容について

- ・担当理事から事業について報告がなされた。

今年度は夏期は鋳造のペンダントを、冬期は裂き織による匂い袋制作のワークショップを実施した。クラフト文化をワークショップとレクチャーを通じて感じてもらうことを目的とした。

■夏期：「金属を溶かしてペンダントを作ろう！」

実施日：平成30年7月31日（火）

会 場：JXビル1F「3×3Lab Future」

参加人数：59名

■冬期：「着物リサイクルで作る“裂き織り匂い袋”」

実施日：平成31年1月12日（土）

会 場：インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

ミッドタウン・タワー5F

参加人数：33名

■第58回日本クラフト展に於ける広報展示

平成31年1月6日（日）～16日（月・祝）

会 場：東京ミッドタウン・デザインハブ 第58回日本クラフト展会場

- ・夏期、冬期のワークショップ共に参加者に配布するためのテキストの作成を行った。内容は扱う素材の歴史や技法等図版を交えて、事後の参考資料となるよう作成した。資料作成に於いてはレクチャー講師の方にも協力をいただき資料等を整えた。事業実施後も親子の話題を継続させるツールとして有効であった。また、こうした資料の蓄積は当協会の貴重な資料となっていく。今後も継続する方針である。

- ・参加者募集については、夏期の実施はスムーズであったが、冬期は思うように進まなかった。加えてインフルエンザ流行の時期と重なってしまい当日のキャンセルも目立った。結果目標としていた参加者数を大きく下回る結果となった。

近年、小学校では土曜日でも授業を行う学校が増えてきており、今後はそうした状況も正確に把握して開催日を設定、また、事業の本質を踏まえながら、男女問わず親しむことができる内容の検討も必要である。

以下、各項目の担当理事からの報告と評価委員の意見等

●事業実施の準備体制について

- ・実行の準備と実施については会員による実行委員会を組織し行った
- ・委員会は計2回開催した。テーマの設定から具体的準備まで詳細を詰めることができた。

～個々のプログラムの具体的な準備は適格に進められた。委員会の開催回数は少なかったが、個々連絡を取り合うことで大きな支障は生じなかった。

また、この事業の意義を協会員皆が更に認識を深めることで、今後の可能性を広げることが出来ると感じる。

●告知・募集の方法について

- ・夏期は2018エコキッズ探検隊のプログラムとして開催し、先方の持っているネットワークに依るところが大きかった。冬期は募集チラシを作成、HPやメールマガジン、フェイスブックで広報を行った。また、エコキッズのメールマガジンでも周知をしてくださり参加者募集の大きな力となった。しかしながら目標値を下回る参加人数であったことから、今後、情報の発信先、内容について対策が必要である。

●実施内容について

- ・夏期は鋳金作家の方に、鋳物の制作工程を映像等を交えながらレクチャーいただいた。熔解する金属を直に見る参加者が殆どで、貴重な体験を提供できたと感じている。
- ・冬期は裂き織についてレクチャーいただいた。制作では、思い思いの端切れを選び、布を裂き、また布にする工程を体験いただいた。リサイクル文化の大切さも併せて感じてもらうことができた。
- ・全体の時間配分は概ね良かった。

●今後の展開について

- ・今後も素材、手法を変えて多彩なクラフトデザインの魅力を発信していくことが望ましい。また同素材でも切り口を変え、伝える内容を工夫する等様々な展開が可能である。
- ・現在のレクチャー+ワークショップというスタイルは、この事業の立ち上げから続い

ている。レクチャー内容を工夫してはいるが、今後実施体裁の根本的な検証も含めて行ってみる機会を設けても良いのではないだろうか。

- ・単に工作体験の内容にならないよう、何を感じてもらうかを常にはっきりさせていく必要があると感じる。参加者、特に子ども達が考えて、その後に発展できるようなプログラム作成を今後、さらに検討してほしい。
- ・会場の都合により、火器や音等の制限があるが、今回夏期開催では錫を溶かすコンロの使用が可能だった。会場等の検討も含め今後検討をしていって良いのではないか

●その他

- ・アンケート等によると参加者の満足度は高い。参加者数は目標値には僅かに達しなかったものの本事業を通じてクラフトに親しみ、またそれをきっかけに親子の対話を深めていく目的は果たせたと感じる。
- ・日本クラフト展会場での広報展示は、会期中 9000 人を超える入場者にこの事業の内容と意義を伝えることができた。地道ではあるがこうした活動は必要である。
- ・次年度開催の倉敷での作品展に親子ワークショップの併催を検討する。地方での開催の場合、詳細にわたり、地元会員や地元主催者の協力は不可欠となる。開催の意義は大きいので、前向きに取り組む。
- ・アンケートの設問内容の検討等、今後の事業展開を見越して再検討を行う必要がある。また、継続的に予算項目についてその内容、根拠等を検証し、更に効果的で効率的な内容にしていくよう努める。

以上

親子ふれあいワークショップ

2019年1月12日

着物リサイクルで作る「裂き織り匂い袋」アンケート

<回答者数>

保護者	10
子供	18
	28名

1. 何年生ですか？

6才	1
小学1年生	5
小学2年生	5
小学3年生	5
小学5年生	2
	18名

2. このワークショップに参加したきっかけは何ですか？

<子供> <大人>

学校からチラシをもらった	5	0
友達が参加していたから	1	1
ミッドタウンからのお知らせを見た	1	1
興味があったので	1	2
協会から送られてきた案内やポスター	3	1
前回は参加してとても良かったので	1	1
親や家族にすすめられたので	4	1
親子で工作をしたかったので	0	0
協会のHPや会員のブログを見て	0	3
未記入	2	0
	18	10

3. ワークショップを受けて楽しかったり、役に立つと思ったことはどんなところですか？

<子供> <大人>

楽しかった	7	5
再利用を考えるよい機会になった	1	3
糸や布を織るところが楽しかった	2	2
布を選ぶのが楽しかった	3	2
リサイクルの話が面白かった	1	0
便利な道具を使えたこと	1	0
日本の文化を知ることができた	1	1
縫うのが楽しかった	4	0
集中できたところ	1	1
役に立つ技術を学べたこと	4	1
未記入	1	0
複数回答	26	15名

4. 親子ワークショップに参加した回数

<子供> <大人>

はじめて	12	7
2回目	6	2
3回目	0	1
	18	10

5. 次回も参加したいですか？

<子供> <大人>

ぜひ参加したい	9	4
参加したい	8	3
参加したくない(手が疲れたから)	0	0
何を作るかによる	0	1
未記入	1	2
	18	10

6. (お子様へ) 今日の事を誰かと話しますか？

はい

18名

お父さん・お母さん	9
祖父母	4
兄弟・姉妹	1
家族	3
友達	6
学校の先生	1
	24名(複数回答)

7. (保護者の方へ) 今日のワークショップについて今後、どのようにお子さんとお話をしてみたいですか？

作ることの楽しさを学べたので、家でも一緒に材料を考えてみたい
 習ったことを応用できるように布を組み合わせで作ってみたい
 編み物や織物についてもっと深めたい
 古布を使った作品作りをしてみたい
 リサイクルや大切な資源についての知恵に考えてみたい
 織物好きな祖母を交えて物作りしてみたい
 夏休みの自由研究に生かしたい

8. これから体験してみたいことはありますか？

<子供>	<大人>
お手玉づくり	貼り絵
マフラーを作りたい	アクセサリー作り
きれいなものを作りたい	カバン作り
財布を作りたい	木工クラフト
ぬいもの	和紙を使ったクラフト
木工	花瓶作り
アルミホイル玉を作ってみたい	リース作り
パッチワーク	コースター作り
お絵かき	糸作り体験
ピン止めやブローチ	織物をもっと体験したい
裂き織体験をまたしたい	
アクセサリーを作りたい	

9. 今日の感想などご記入ください

<子供>
 かわいい匂い袋ができてうれしかった(2件)
 むずかしかったりカンタンだったりして楽しかった
 気に入ったものが出来た
 持ち帰って使うのが楽しみ
 また次も体験したい(2件)
 たのしかった(8件)

<大人>
 時間内に仕上げられるか不安だったがきれいに仕上がって楽しかった
 楽しくて活気のある時間だった
 説明が分かりやすく面白くて楽しかった
 歴史から実践まで丁寧に教えてもらえて良かった
 素敵な作品が出来あがってうれしい
 楽しく学ぶことができた
 分かりやすくアドバイスしてもらえた
 無心にやれて楽しかった
 裂き織をまたやってみたいと思いました
 優しく教えていただいととても嬉しかった
 可愛い小物が出来てうれしい